

石城共販賣に於ける昨日の  
俵米共同販賣は米價漸騰の折  
柄如何なる高値を見るかを注  
目されてゐたが各商人に質問  
旺盛で十余名の競争入札が起  
谷倉庫の四十俵を五等建値九  
圓二十五錢で平町久保木林之  
助商店に勿來の百四十七俵は  
九圓六錢の割合で同商店に次  
へて平倉庫の九十二俵は九圓  
二十三錢で平町伊藤昌二商店  
に落札したが前回に比すれば  
左記の如く何れも一俵に付き  
三十錢以上の高値を示した

# 磐城中學の運動會

八上 愛謫會に於ける水田平線の運  
溝澆漬に崩落土取捨て作業  
昨年の出土 現在に至るまで 最低は十二月 四月まで

來秋から  
一月中の七圓五十錢  
の最高九圓十錢

但し本年は  
磐城炭礦の況況で小學兒童  
激増した内郷村が同礦から  
教育費寄附金八千圓を一萬  
千圓に學級增加による校舍全  
築費へ一萬圓の支出を要す  
てゐる悶着は既報の如く懸  
村長大會から沼田村長が懇  
た昨一日同村役場に炭礦側と  
出村議を除く議員の協議會  
開き會社に交渉の結果磐城  
は昨年從來の一萬二千圓を  
一千圓に減じたので其れを復  
する一万二千圓の外増築費を

に同意か  
に云ふ意向で  
逃走した舉動不  
審男逮捕さる

(元)が男の手先數名と共に巧みに私文書及び印章偽造し他から金を借りて利で融通なし居るもの其不正の所爲を其の筋に喰けられて早くも身邊の危機を覺り去月二十日頃行方ましたので平署では各地つて指名照會中であつた二日栃木縣日光署の手に同地鬼怒川温泉旅館料理業喜樂方に女中に化けて身柄引取りに向つたがせを取押へられ直ちに平署を昨年一月頃から町内守三

せつ 謀し 石初太郎の名義を利用し  
千葉てる外數百圓を引出  
るを初めとし文書偽造を  
同様手段によるもの約八  
この金額四千圓に上るも  
見られてゐる

同町した以て十口のと

平町外内郷、飯野二ヶ村に亘る水害防除の爲め計畫されてゐる古川改修は地元負擔に對する平町の奮發で愈よ具体化し縣では今二日土木課の河川技師蓬藤、金澤兩氏を同町に派し小林平土木監督所長、高橋夏井川改修事務所長等と共に打合せの上青沼平町長とも地元關係その他に就て實現交

涉を進められるところあつたが縣では鎌田橋の位置變架は換えも共に愈々實施に決しやるものゝ如く工費三十万圓である豫算する古川の改修は河幅を二十間に擴張する大工事で昭和十一年まで三ヶ年繼續の事業となし本年度は六萬圓程度の工事を施行することになつて模様である

鹿島橋の二日名で、昨日村内走り、崩落の

トは愛護作業は中にも見事なものとして記念に残され  
トは岩石と砂利運搬を撮影して記念に残され  
トは豊間海岸へアザ

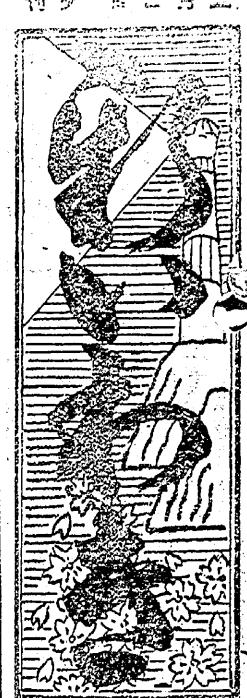
江名町

主要道路である小名濱線の修理は一日も放置されぬ現況にある、然るに該線に布設されるべきものである。また、道會社の軌道は日下機関道轉を廢止され其の運轉を停止するが、このため雨天の際は道内に水溜りが出来て甚しきものであるのみならず、あるがために水溜りが出来て甚しきものである。また、道會社の軌道は日下機関道轉を廢止され其の運轉を停止するが、このため雨天の際は道内に水溜りが出来て甚しきものである。

石城郡玉川村大字島鉢木  
氏が目下同村對入山採炭  
間に紛争中である藤原川  
水の鑿毒問題に關し玉川  
農作物に被害あるが如く  
るは名利自略の陰謀家に  
られるものとなす鑿毒否  
聲明書を印刷配布しなこ  
旣報の通りであるが右に  
て玉川村長野嶋満藏氏か  
れは軌  
安な  
之  
排水  
爾の  
出來  
該路  
山川

一男  
徊してゐた時一日平町目  
との頭で精有刑事に舉動不審  
灌漑まれ検身取調べの結果東  
芝園芝口二丁目が本藉で  
村が唱ふ芝園芝口二丁目が本藉で  
引摺住戸不定の無職者と判り  
認の町尼子薙荷神社の賽錢を  
對し白したが餘罪多き見込み  
ら出調べ中である

十一月改修愈よ實加  
今日その實現交涉



日曜祭日  
一ヶ月  
郵税十五錢一部二錢  
廣告料  
場所指定  
發行  
發行所  
福島縣平町大町二  
新いわき新聞

ベースとは空間と  
時間とか餘地または船腹のこと及  
所或は船腹のことも及  
時間の意味にも使は  
る、新聞の編集にス  
ーパーが多過ぎるなど  
ふのは空間が多くて  
マリがないこと、

十一月最高八圓 一錢  
十二月最高八圓 最低七  
低八圓 當月を通じた平  
價格八圓二十錢  
十一月最高八圓 一錢  
十二月最高八圓 最低七  
低八圓 當月を通じた平  
價格八圓二十錢  
十一月最高八圓 一錢  
十二月最高八圓 最低七  
低八圓 當月を通じた平  
價格八圓二十錢

均最	四十錢	八圓四	八圓四	二十
八圓十錢	平均八圓六二	三月最高八圓五十五錢	低八圓四十五錢	六十錢
四月最高九圓十錢	最低	四月四十五錢	平均八圓六	四月最高九圓十錢
四月四十五錢	平均八圓六	三月最高八圓五十五錢	低八圓四十五錢	六十錢

三錢 最低 沼尻 二木仁圓卯太  
八十 八回 最 に宿泊し瓦斯大島男羽織  
八回 を四十七錢で賣却した不寐  
ががあるので昨一日平署の  
刑事が次第を質したため卯  
に行つた姿を見るや逸早  
走したが午後五時頃に至

方郎に告白された  
一枚の點柏木太郎く逃り御

水經注

堆肥施用上  
軽視され易い

廣雅

卷之八

內科 小兒科

大森西院

電二五八番  
森南  
大  
平町南町  
士學院  
需入院

**洋式宴會の仕出し**  
五人様以上の御注文にはボーライもコツクも出張  
まして弊店へ御来店御食と何等變りなくサード  
ス致します

評判の： イワキ

姉人科院 長木村寅次郎  
外科 医學博士 内木宗八  
薬局 薬剤師 玄蕃彌一  
病室完備 入院隨意  
平町新川町九一  
木村病院

埴土又は腐植土に富む土壤への施用量は、一ヶ年平均施用量よりも五〇乃至一〇〇貫を減じ、反対に水田砂質土または排水良好なる砂質埴土及び畑地土壤土又は砂質土に於ける使用量は前記一ヶ年平均施用量の外に更に平均量以下に施したる部分の余剰を追加増施するを最も理想的とす。

局部的小地區面積に限り反當八〇〇乃至一〇〇〇貫の如き多施をなすことは、他面に於て必要量の半ばにも達せざ

用は極力避け、過少の個所なきやう分配施用する必要あり。本場に於ける堆肥の用量試験と其の增收歩合の關係を見ると次の如し、

無堆肥區	反當糞收量一三 八、六 堆肥二百貫による 增收なし
堆肥一〇〇貫區	反當糞收量四四、〇 堆肥三百貫による 增收三〇、八
堆肥三〇〇貫區	反當糞收量一五二、八 堆肥二百貫による 增收七、八
堆肥五〇〇貫區	反當收量一五三、六 前同斷の增收

平 町 藤沼醫院 電話五〇七番

吉田屋  
本店

# 牛も豚も優良品の自慢 内御用命は 三三三屋

内科 小兒科  
外科 花柳病科  
耳鼻咽喉科  
レントゲン科

平町田町 電話五一一三番  
高久病院 院長 當學士 高久忠

御二處物に  
所賣特產名城  
土の名産が第一  
名菓各種  
平みやげ  
七濱の生產品  
地元産の果實  
前驛町平

石炭  
コクス  
豆炭  
水野石炭店  
平町郵便局通り  
電話二九九番